

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域福祉に貢献する	「お年寄りを敬う」を理念に掲げている。職員会議で理念について話し合い、職員は理解し実践している。ホールに理念を掲示し、外部の方や職員が常に目に触れるようにしている。理念に反した行動やケアが見られた時は管理者から注意したり、連絡ノートを使い注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の活動に積極的に参加している 地域住民との交流会	自治会に加入し区費の支払いを行い奉仕活動に参加している。一軒の家として回覧板が回り、地域の情報を知ることが出来る。ホーム主催で毎月「地域交流会」を開催し、ボランティアの方や地域の方に参加していただき交流を図っている。公民館行事に参加したり、地域行事にも積極的に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談や見学はいつでも受け付けており、また、心の病病の方の社会復帰の場としても応援しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の積極的な参加により意見交換の場として活発に行っています	家族、区長、組長、民生委員、地域包括支援センター職員で構成され、2ヶ月に1回開催している。開設した年ということもあり、運営推進会議の在り方等の説明をし、事業報告や利用者の状況を議題にしている。新年度に向けて区長や民生委員の方より今後の会への参加の方法などに心強い発言を頂いている。委員の方々の意見や助言を運営に反映していきたいと前向きに捉えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村役場の福祉課と連絡を取りながら取り組んでいる	介護保険の代行申請を家族の依頼を受けて行っている。認定調査では情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間日中通して拘束しない様に職員が見守りの中で危険が無い限り自由にして頂ける様に見守りの中で生活して頂いている	玄関の鍵は昼間施錠していない。来訪者はチャイムで対応し、入口には小さな鈴が取り付けられている。外出傾向が強い方への対応は職員の見守りと一緒に行動することで解決している。「無断外出マニュアル」が作成され事務所に貼ってあった。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに職員会議等で話し合いなどしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修などで学んでいるが職員間には話してはいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点等無い様に十分な説明を行い、署名捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は設けているが、県、市町村等の苦情受付窓口の説明のしている	家族会は24年度に1回開かれている。家族の面会時に職員は積極的に関わりを持ち、利用者の状況報告や家族の要望を聞けるように働きかけをしている。訪問調査時に利用している夫の面会に来られた奥様に対しても利用者と同じようにいたわりの気持ちで接していた。「行事を通じて職員と話す機会が多く意思の疎通が出来ありがたい」との家族からの声もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議や定例会議等で職員の意見、要望を聞いている	職員会議が月に1回行われ、職員は一人一回必ず発言する機会を与えられ意見など自由に伝えている。運営会社の各事業所の管理者による定例会議が月に2回あり問題点や伝達事項はホーム職員会議で伝えられている。日勤・夜勤の連絡ノートを作成し、利用者の状況の把握が職員間で出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や、講習会への参加援助や勤務時間の受け入れをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加させている		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の主催する研修会を通じ交流を深め質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時家族と本人に面接し、希望や不安なことを聞き出し受け止める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っていること、不安または希望をじっくり伺い、それらの解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その家族により必要としていることは異なるので、よく話し合いケアプランを立てている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴やグループワークで楽しみ、お誕生会や昼食等一緒に楽しく過ごしている、利用者本人から木島平の歴史など教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来設していただき一緒に食事や居室でのひと時を過ごして頂きながら、日ごろの生活状況も伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真等見ながら思い出話を聞いている	同級生や近所のお茶飲み友達の訪問がある。「あっ、おめえ来てくれたんだ」と喜んだ利用者を見て、「こんなに喜んでくれるならもっと早く来ればよかった」と言って再会を楽しんでいた。利用者に簡単な絵手紙を書いていただき、職員が宛先を書き家族や親しい人へと送っている。お墓参りや新年を自宅で過ごしたいと希望する利用者の支援も家族と協力しながら行なっている。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を大切にする支援		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方がその後どのような生活になっているかどうか電話などで聞き最終的にこの施設に入れたかを確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い出や希望に感心持ち、ケアプランとして検討している	「今日は誰とも話したくないから」など、利用者は思い思いのことを職員に伝えている。利用者の希望や家族の要望で出来ることをやっていただくようにしている。利用者の一人が帰宅願望から「家に帰りたいコール」を発すると利用者がお互いの立場を話し慰め合う姿が見られるという。また、利用者同士、お互いの境遇について話し、ストレスを発散することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から、詳しく聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況。心身の状態を把握して記録として残している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望に添うようにするために、職員間で話し合いを持ち、ケアプランとしている	利用開始時に利用者や家族の要望を聞き作成している。利用者の一人ひとりの生活記録を毎日つけ、職員会議で検討の場を設けケアプランに反映している。6ヶ月に1回見直しもあり、利用者の状況変化によっては随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録を基に介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院や薬の依頼受け取り退院の付添等職員が支援している		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署からの指導を受け、消防訓練などを実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診をしてくれているが、とっさの眼科や歯医者等には職員が付添している	利用者や家族の要望でかかりつけ医の変更が行われている。協力医による往診が月2回行われ、また、訪問看護も1週間に3回あり、情報の共有化と適切な対応を取ることが出来ている。協力医以外の受診は家族の付き添いをお願いしているが、都合がつかない場合には管理者が付き添いをする事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に週三回来ていただき情報の交換をしながら相談・治療が受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設の協力医院のドクターナースが病院側との連携・情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との間で、ターミナルケアについて相談をおこない早い時期から十分行っている	重度化した場合における看取り指針が作成されている。「看取り介護についての同意書」を交わし、家族と医師、職員の話し合いで行う。家族の希望で医療を希望され退所され入院された方やホームでの看取りを希望された方など、その方に合わせた対応をした。昨年9月にお亡くなりになられた方は3日前に晩酌をし、職員に見守られ旅立たれ、利用者や職員に見送られご自宅に帰られた。他の利用者も「私もこんな風に逝きたい」と言われたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当医と連絡を密に摂り、訪看との連携によって急変時の対応を電話にて指示を受けている 実際の訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練として ふいに連絡網等で伝達訓練をしている 地域、近隣には事前に機会があるごとをお願いをしている	屋間想定避難・誘導訓練と通報訓練、消火訓練を行っている。事務室には緊急時の連絡網が掲示され、日常生活の中で職員間の通報訓練も行っている。スプリンクラー、煙探知機、消火器等の設備も整っている。運営推進会議で地域の方への協力を委員を通じてお願いしている。地区の防災訓練にも職員が参加している。AEDが事務所のカウンターの上に置かれすぐに使用できるようになっている。	年間の避難訓練は行われているが、今後夜間想定訓練もしていただき、万が一に備えられることを望みたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、対応には十分に配慮していくように、職員会議には注意を促す。	開設当初ご夫婦の方が居たことがきっかけで全員名前に「さん」づけで呼んでいる。昨年亡くなった方は現役の時「所長」さんだったので利用者や職員も「所長さん」と親しみを込めて呼んでいた。同じことを何回も話しかけてくる利用者に職員は丁寧に応じ、その話を広げていく努力をしつつ利用者の言葉を引き出そうとしている。居室の入り口にはドアの外側にカーテンがあり、ドアを開放した時の目隠しとしての配慮が行き届いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・傾聴により、本人の思い・気持ちを 知る機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりに縛ることなく個人のペースに合わせた生活をしていただくように、声掛けを頻繁にして気持ちの把握に努める		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整容を本人と行ったり希望の服が欲しい時等は一緒に買いに出かけている お気に入りの床屋さんには訪問して切ってもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモの皮むき大根おろしや下準備を多くの利用者をお願いして一緒に行い後片付けにも食器洗いや食器拭き等一緒に行っている	職員の手作りの料理やおやつは利用者や家族に評判が良い。職員と利用者が一緒に台所で作業したり、片付けをする姿が見られた。ホームの畑で収穫した野菜が見栄えも良く調理され食卓に登場している。食事制限の方やとろみをつけて食べる方、職員の介助で食べる方など様々だが、同じ食卓で温かいものは温かく、彩りもよく、また美味しく、お互いの笑顔を見ながら食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の必要・要望に応えられるように職員は工夫を凝らしている 晩酌したい人には希望に応じている 食べたいものがある人には一緒に買い物などに行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は習慣的に口腔ケアされない人でも声掛けで毎食後行っていたり、出来ない人にはスタッフが洗ってあげる		

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常時オムツ対応の人も毎日の声掛けによりリハビリパンツになり定期的なトイレ誘導にて排泄の失敗が少なくなっている	職員の声掛けによりオムツ使用の方は全くいない。利用者によっては排泄を失敗した時に自分で処理しようとする方もいるが、職員は居室やトイレで他の利用者の目にふれることのないように配慮しお手伝いをしている。夜間のみポータブルを使用する方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人が多く便秘薬を服用しているが長年飲んでいることで効き目が無くなってきている人もおられるので食事の面で繊維質の多いもの野菜を中心に献立を考えてもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は全く決めず利用者さんの希望を一番に考えて入浴している 長年の生活習慣で入浴を週に一回程度の方は一応声掛けをしながら希望に添っている	個々の対応をしている。毎日の希望者には毎日入っていただいている。声掛けをすると「今日は風邪ひいたみたいだから」と断られると「じゃあ少し様子見ますね」と無理強いしないで対応している。女性の利用者で衣服の脱衣は見られたくないという方には脱ぐ間席を外し、声をかけて許可が出たら介助している。利用者に気持ち良く入っていただくために菖蒲湯や柚子湯などの工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせ、自分の部屋で休息をお願いしているが一人が寂しいと言う方にはホールで寝てもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんの状態が変わり薬が変わった時には利用者さんにも説明している 食事が済んだ方から一人一人に渡して服薬確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や雑巾縫い新聞たたみや洗濯物たたみ調理の下準備や買い物草取り等出来ることは その方の能力に合わせた役割で、楽しみながら作業を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの四季を楽しんだりピクニックや音楽会地域の方たちとの交流会など機会を多く作り楽しんでいる	天気のいい日の散歩や畑の仕事等日常的に外に出ている。お花見やバラ見物、紅葉狩りなど毎月1回はドライブを兼ねて外出している。外出予定の日、利用者は朝早くからそわそわし明るい表情で出かけているという。広告に「お一人様1個」の安いものがあれば数人で出かけ買ってくる。地域の秋祭りにも全員で出かけ、屋台の焼きそばやたこ焼きをお屋に食べ楽しんでいる。	

グループホームゆりかご木島平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで事務所でお金を預かり買い物に行くときにはお財布を渡して一緒に出掛ける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に行っているが利用者さんによっては電話は控えさせていただいている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅地に位置しており、室内にはいつも季節の草花で季節感を感じるようにしたりカレンダーや装飾品はスタッフの手作りで季節の物を取り入れている	玄関の大きな一枚板に書かれた「ゆりかご木島平」は利用者のご主人の手による墨痕鮮やかなものであった。玄関や居間に飾られた利用者や職員の手作りの作品が室内に華やかさを感じさせている。近くの高校の生徒の手による花が飾られていたり、手作りのカレンダーに利用者が折った折り紙のお雛様が貼られ、春の訪れを感じることが出来た。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士の交流に心掛け、居室での静養も大切にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴れ親しんだ品や、家族との写真・信仰宗教の継主様の写真等で心穏やかに過ごすように配慮している	居室にはベッドと収納用のクローゼットが配置されており、収納スペースも十分あるため、居室内は生理整頓が行き届いている。立派な賞状や写真が置かれ、洋服など利用者の好みのものも掛けられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るまでゆっくり待つ精神でケアしている		